

ひとり1改革運動

「県民サービスの向上のために仕事のやり方を見直そう」改革賞

子育て情報発信！ ～ふじさんっこクラブ～

【経営管理部 福利厚生課 福利厚生班】



2014年12月に県庁内に一時預かり保育施設「ふじさんっこクラブ」がオープンしました。利用者の声に応え、また施設の認知度を高めるため、継続的な広報を企画・展開しています。

その中で、スタッフ紹介ポスターや庁内子どもトイレマップを作成し、施設に掲示、全庁掲示板でも広報をしました。

広報では、保育場面での子どもの様子や起こった出来事の紹介を通して、「子育てって楽しい。」と子育てを肯定的に感じてもらえる情報発信をするよう心がけています。

＜ふじさんっこクラブスタッフ紹介＞

・子どもの安全のため名札を着用できない保育スタッフ名を掲示するため、スタッフのメッセージ付きで作成しました。さらに、その媒体を活用して来庁者や県職員にふじさんっこクラブへの親近感を持ってもらい、利用促進につなげたいと考え「ふじさんっこだより」を発行しました。

＜庁内子どもトイレマップ＞

・「親子が楽しんで過ごせる県庁の紹介」をコンセプトに、多機能トイレ（車いす対応、ベビーチェア、ベビーシートなどを設置）の場所や、庁内お勧めポイントの紹介を、親子がなじみやすい手書のマップとして作成しました。



＜他は、こんなおすすのスポットがあります。＞
 ＊別館 21F に広い展望フロアがあります。
 ＊西館 4F コンビニ横にフリースペースがあります。
 ＊西館 4F 会議室前の休憩スペースもおすすめです。



今後に向けての更なる取組は？
 ・施設を知ってもらうために施設公開日を設け、一般の方や、お試しでの保育利用を呼び込むなどの取り組みを行っていきたくと考えています。

【静岡文化芸術大学 田中教授 から一言】

顔写真付きの「スタッフ紹介」は、スタッフへの親近感が湧くのはもちろんのこと、スタッフ自身の意識面でもメリットがありそうです。「トイレマップ」は子育ての視点ならではのユニークなアイデアです。こうした取り組みを通じて、県庁が子を持つ県民や職員にとって親しみのある場所になるといいですね。

ひとり1改革運動

「県民サービスの向上のために仕事のやり方を見直そう」改革賞

県民向け防災情報サイト「サイポスレーダー」のスマホ版を作成

【交通基盤部 土木防災課 防災班】



風水害等の未然防止と被害の軽減を図るため、平成15年から防災情報サイト「サイポスレーダー」を運用し、防災気象情報を広く県民に提供してきましたが、パソコン向けのサイトであったため、スマートフォンでは、操作性が悪く、また情報がグラフ表示されないなどの問題がありました。

そこで、スマートフォン専用サイトをリリースしました。これにより、操作性が向上、画面も見やすくなり、身近な地域の防災気象情報がいつでもどこでも、簡単に確認できるようになりました。

工夫した点は？

- ・スマホ版導入にあたり、メニューからの選択方式を採用することに加え、小さい画面でも情報が解りやすいように、アイコンの着色やデータのグラフ化を行うなど、改良を加えました。
- ・スマホ版では、搭載できる情報が限られるため、今までアクセス数の高いコンテンツを中心に、分かりやすい画面構成としました。

スマホ版開設の効果は？

- ・「サイポスレーダー」は民間気象会社ウェザーニューズと契約を結び、情報分析を受けています。市町の防災担当者も業務に利用しているものですが、スマホに対応したことで、県民の方も簡単にアクセスできるようになりました。
- ・梅雨や台風シーズンを迎え、今まであまり関心のなかった人に対してもサイトの利用拡大が期待できます。



悪天候時・台風接近時は
こちらにアクセス!



静岡県の地域密着型防災サイト

サイポスレーダー
スマートフォン版

サイトURL: <http://sipos.pref.shizuoka.jp/>

【静岡県立大学 西野教授 から一言】

行政は、情報や知識の一大集積地であるものの、住民や事業者への的確な加工と十分なフィードバックが行われているとは言い難い状況です。気象情報、災害情報をスマホで見られるようにしたことは、緊急時にも、通常時にも有用であり、飛躍的な情報活用です。表示や操作性にも配慮された大変優れた取組みであると言えます。

ひとり1改革運動

「県民サービスの向上のために仕事のやり方を見直そう」改革賞

班員で検討し「手帳申請写真チェック用ゲージ」を開発

【東部健康福祉センター 相談判定課 判定班】



療育手帳（県が発行する知的障害児・者の手帳）の発行には、規定サイズの写真が必要ですが、提出された写真のサイズが異なったり、写りが不相当であるため、再提出を依頼することがありました。受付事務は市町を介して行うため、改善が難しく、手帳の発行が遅くなってしまっていました。

そこで、班で改善方法を検討し、「手帳申請写真チェック用ゲージ」を開発し、受付けを行う市町に配布しました。その結果、市町窓口で確実にチェックされるようになり、手帳の発行をスムーズに行えるようになりました。

工夫した点は？

- 予算をかけず、使いやすく、邪魔にならないツールを検討し、外部発注などはせず、所属にあるラミネートパウチに適正な写真サイズの枠をくり貫く方法を採用しました。
- 必ず週一回、短時間の班会議を開き、情報共有をしています。ベテランから新人が学ぶ場になっており、今回の解決方法も、その話し合いから生まれました。



チェック用ゲージの効果とメッセージ

- 市町からは、「住民への説明がしやすくなった」、「他の手帳写真にも使える」といった声が寄せられ、写真の再提出も少なくなりました。
- 療育手帳は県全体で2万8千人以上が所持しており、新規申請や再判定など事務処理件数が膨大な業務ですが、今後も迅速・確実に対応していきたいです。



班員で検討

【静岡産業大学 松本教授 から一言】

本事例の開発プロセスと解決策は、職場の「現場力」や「発想力」の高さを示していて、頼もしさも感じさせてくれます。県の仕事には「間接的な依頼」を含む仕事が少ないので、他部局においても参考になると思われます。本事例のような取組は、公共組織だけではなく非営利・営利組織に対しても是非紹介してもらいたいものです。

ひとり1改革運動

「県民サービスの向上のために仕事のやり方を見直そう」改革賞

知れば納得！保健所HIV検査

【中部健康福祉センター 細菌検査課 細菌検査班】



HIV感染者・エイズ患者は増加傾向にあり、早期発見による感染拡大防止には、検査を行うことや正しい理解が大切で、そのために保健所では、HIV検査を実施しています。

この検査をさらに利用してもらうためには、「検査に対する不安」を軽減する必要があるのではないかと思います。HIV検査の具体的な流れを11枚の写真にまとめ、さらに、『HIVやエイズって何？』、『どんな検査をするの？』『もし陽性だったら？』などの素朴な疑問から、少し専門的なことまでわかるQ&Aとともに、ホームページに掲載しました。

工夫した点は？

- ・被検査者の目線や動線で、県総合庁舎の入口から保健所に入る場面から始まり、受付、書類記入、カウンセリング、採血、結果判定など、写真で視覚に訴え、実際の検査がイメージできるようにしました。
- ・当所の衛生薬務課と連携して、管内2大学の新入生を対象に実施した薬物乱用禁止講座の資料に、ホームページへ誘導するためのQRコードを付けたHIV検査案内を入れました。

ホームページ掲載の効果や反響は？

- ・検査を受けた方から、「ホームページを見た。検査の流れがわかりやすくてよかった。」「検査に対する漠然とした不安が解消された。」という意見をいただきました。
- ・また、ホームページで事前に検査の流れを見た方には、検査申込時の説明を短縮することができました。



【静岡大学 日誌教授 から一言】

県民目線で、行政サービスの提供の仕方を改善した良い事例です。「HIV検査」の流れを映像にしてホームページに掲載したことが、利用者の不安をなくすことに役立ちました。このような工夫の積み重ねにより、事業がめざしている成果の達成に結びつくはずです。